【令和５年度地域包括支援センター事業計画について】【要旨】

概要説明

【質　　疑】

委　　員）いろいろな事業をされているが、同居家族がいれば、そういう事業の
　　　　　情報提供できる。独居の人や地域で孤立する人への情報提供をどう
　　　　　するのか、どうサービスにつないでいくのかという視点が大事では
　　　　　ないか？

事務局）２４時間見守り事業の活用、民生委員との連携、７７歳８８歳の全件
　　　　　訪問により把握に努めている。

委　　員）認知症で独居の人は、自分から困りごとを訴えない。自分から支援の
　　　　　情報を手に入れる機会もない。そのため本当に支援やサービスが必
　　　　　要にも関わらず、なかなかつながりにくい。そういう意味で、７７歳
　　　　　の節目ですべての高齢者をリスト化しておくのは良いと思う。

事務局）支援が必要だが、本人が拒否される場合の介入が難しい。あんあんだ
　　　　　より等を持って訪問して介入の機会をつくっている。

委　　員）引きこもり、孤立している人や家族は、誰からも声がかからず、情報
　　　　　が伝わらない。また、どこにつなげば良いのかと思う。

事務局）地域包括支援センターに声を掛けて欲しい。

委　　員）ケアマネの力量を超えているケースも増えている。地域包括支援セン
　　　　　ターにはケアマネへの助言をする事業もあるので、もう少し連携を
　　　　　深めてもらいたい。

委　　員）利用者・家族から暴言等、困難事例が多い。地域包括支援センターに
　　　　　相談したこともある。地域包括支援センターにつなぐまでにケアマ
　　　　　ネとして、なんとかできないかといろいろ方法を考えてから、地域包
　　　　　括支援センターに相談するため、対応が遅くなることもある。

　　　　　ケアマネもケアスタッフも人数が減っている。コロナもあり、人員の
　　　　　調整が大変だった。人員確保のための転職フェアを続けてもらいた
　　　　　い。

委　　員）民生委員の役割大きいが、市で行っている全件訪問では７７歳と８８
　　　　　歳で間が空き、その期間に悪化することにより見守りの名簿から漏
　　　　　れる人もいて、ギャップを感じる。よほどの場合はあんあんに相談す
　　　　　るが、もう少し踏み込んで把握をしてもらいたい。

事務局）効果的な方法はないが、地道な訪問活動での異変のキャッチや地域づ
　　　　　くりに取り組みたい。支援が行き届いていない方がいれば地域包括
　　　　　センターへご連絡をいただきたい。

委　　員）警察が年１回必ず訪問している。警察と連携してその情報を交換でき
　　　　　ないか。

事務局）警察との情報共有は難しい。
　　　　　朝日新聞や牛乳配達等の業者と見守りの協定を行っている。

委　　員）独自の行政用語が難しい。市民がついていけていない。「地域包括」
　　　　　という言葉はいろいろな場面で使われている。一般の方には地域包
　　　　　括支援センターと言われても何をするところなのか分からない。な
　　　　　じみの事業をするなら、名称から通じ易いものに見直しても良いの
　　　　　ではないか。

事務局）国レベルで決まった名称なので変えられない。あんあんの愛称をつけ
　　　　　る際も検討したが、外すことはできなかった。ただ、京田辺市の地
　　　　　域包括支援センターは市の直営なので、市役所と言ってもらっても
　　　　　包括につながると思う。

委　　員）いろいろ取り組まれていて、安心して歳をとれる。
　　　　　地域の中で、同じ人がぐるぐる歩いているのをよく見かけているが、
　　　　　見守らないといけない人かどうか分からない。勇気がいるが、声をか
　　　　　けてみようと思う。本当に見守りや支援が必要な人に見守りや支援
　　　　　をしていくためにも、様々な立場から取り組みを続けていきたい。